

昨年末に発表された新成長戦略では、二つの呪縛（公共事業による成長、構造改革による供給サイドの生産性向上）にかわる第三の道として、環境、健康、観光の3分野で100兆円超の新たな需要創造を提唱している。

大丈夫だろうか。

もちろん、2008年秋に始まった大不況では、需要不足が顕著で、供給サイドを強調する成

新成長戦略 その2

東京大教授 伊藤 隆敏



長戦略だけでは不適切である。さらに、環境、健康、観光は成長分野かもしれないが、供給サイドの拡大がなければ、すぐにポトルネックにぶち当た

た。新分野で需要を創造しても、

その供給がついてこなければ価格が上昇するだけで終わってしまう。

成長戦略というとき、なぜ経済学者は供給サイドを強調してきたのか。成長の源泉は、労働供給、

資本蓄積もさることながら、生産性向上（同じ労働と資本投入でありながら多くの財サービスを提供できるようになること）であるという認識だ。

生産性の向上が、実質賃金⇨所得の上昇を可能にして需要増加を生む、と考える。需要の不足は価格が調整するまでの一時的なもの、中長期的には供給が重要、成長分野の生産性向上なくして、経済全体の成長はない。

需要の拡大で成長できるのは、供給に制約がな

い期間だけだ。

観光や健康（医療、介護を含むと理解）は労働集約的産業だ。外国観光客や患者の受け入れには日本人の国際化が不可欠。また、介護・医療専門職の人数全体も足りない。そこで需要を創造しても病院の前に列がでるだけで生産は増えない。外国人労働者の導入なくして成長分野の供給は追い付くのか。

過去の戦略を批判するのは結構だが、経済学の本基本を踏み外しては、新戦略も成功しない。